サポセンがあるよ

青森市の子育てを応援してます

サポセン通信

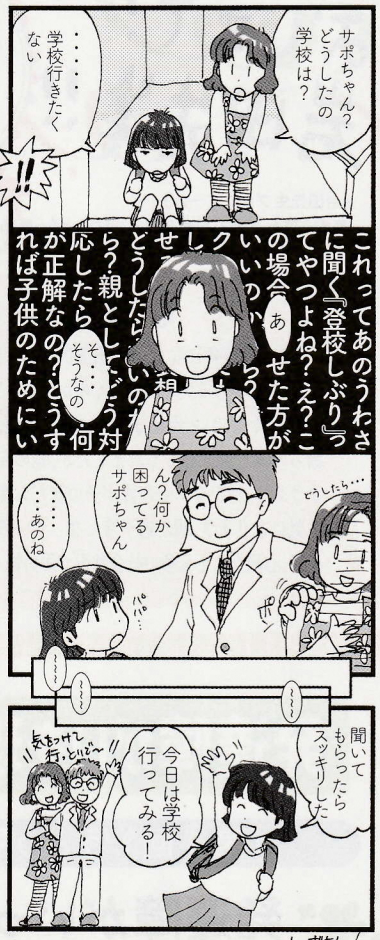
vol.28
2022.7.7 発行

サポートセンター つうしん

青森市子育てサポートセンター では、家庭教育に関する学習機会の提供（青森市内の小中学校で行われている家庭教育学級の運営サポート、子育て講座《きらきら塾》や発達に心配のあるお子さんに関する講座《うとう塾》の企画運営）、情報収集、発信、また子育て相談の対応等を行っています。

サポちゃん

『登校しぶり』



なぜ子どもたちは学校に行けなくなるのか？

《第２回》きらきら塾　6/10 開催

ドキッ!! 登校しぶり
～親ができることって～

子どもが「登校をしぶった時」に親は「子どもが不登校・引きこもりになるのでは？」と、不安・心配が先に立ち、子どもの気持ちに寄り添うことが出来なくなるのではないでしょうか？そんな時、親ができることを共に考える機会にと、前北斗高等学校 校長の渡部靖之さんをお迎えして講話をしていただきました。

渡部さんは、南高校で教鞭をとり、その後、県教育庁で主に生涯学習・社会教育を担当され、最後の３年間は北斗高等学校の校長をされました。あらゆることを「疑ってみる」姿勢が大切だと話され『思い込み・偏見・レッテル・先入観』が無いか？に気づくことが大事で「大人の学びは、学び合いであり、経験・体験から気づきがあり意識の変化に繋がる」とも話され、学校教育は「学び方を学ぶ」場で、生涯学習の一部と話されました。

「なぜ子どもたちは学校に行けなくなるのか？」について、まず、なんのために学校に行くのか？　登校拒否（学校に行きたくない・行かない・行く気がない）と「学校に行きたくてもいけない」の違い、学校と社会との評価・価値観は違う！などのお話から始まりました。

次に「不登校傾向の子どもへの支援⇒不登校を弱みにしない」というお話では「北斗サタデースクール」※の報告や「不登校で勉強や友達関係を失ったけど、人から優しいと言われるのはその頃の自分があったから。将来は、良い方向に向かうと前向きに考えることが出来れば良いと思います。」という生徒の言葉の紹介がありました。

講師：渡部　靖之さん
（前　北斗高校　校長）

※北斗サタデースクール⇒不登校または、不登校傾向のある中学生を対象として、北斗高等学校の生徒と様々な形で交流する取り組み。

不登校をなくす取り組みとして、①学校を選べる社会へ ②学校の「公平主義（皆同じ）」からの脱却⇒一人一人に合った指導　③「ちがいのちがい」を認める風土⇒あってよい違いなのか？あってはならない違いなのか？⇒相手の立場に立って考える・人権を認める⇒しかし、社会も認める・変わらなくてはいけないとのことでした。

「登校しぶりの子どもに対して親ができること」では、「ほめる」のではなく「認める」ことが大事！「ほめる」は上下関係（上から目線）であり「認める」は対等な立場であること、なぜ学校と合わないのかをきちんと理解すること、本人に寄り添う時に、家族内で接し方を変えない（父と母が違う対応はダメ！）などを挙げられました。

学校（先生）との付き合い方では、「言うべきことは客観的に時系列で感情を入れずに事実のみを文章で伝える」そして、「これからは担任制度も変化していくことが望ましい」と、北斗高校の事例の紹介がありました。

また、「親同士・関係者とのいいつながりをつくる」として、「しがらみ」ではなく「気持ちのいいつながり」をつくることが大切だと話されました。

最後に「子どもは、一人ひとり力を持っている。それを引き出すのが、学校の先生・親の役割です。しかし親や先生以外の大人たちが、その子の能力・良い所を引き出してあげればその子は変わる！学校だけではない！いろいろな人が目をかけることで、その子の能力を活かして欲しいと願っています。」とのメッセージを頂きました。

おしえて！岩田先生!!

《岩田先生プロフィール》
臨床心理士、公認心理師。スクールカウンセラー歴16年。
小・中・高に出向いています。ただ今子育て真っ最中。

しつもん

子どもが中学年になり、友だち関係が気になっています。先日も、出かける先や誰と行くのかを聞き「心配だから行って欲しくない」と伝えました。結局、素直に出かけるのを断って家で過ごしてくれましたが、他の友だちは出かけたようです。行かなかった我が子の友だち関係が悪くなるかと気になります。親が過干渉になっているようにも思える反面、心配なことも多い社会状況で思い悩んでいます。

先生からのお返事

質問者さんはお子さんの友だち関係が心配と同時にその関係を大事にしたい思いもあるからこそ「自分の過干渉な関わりで子どもの居場所がなくなるようなことはしたくない。」、「でも、心配だから口を出さないわけにもいかない。」、「でも…」のループにはまり、悩んでいるように感じました。

低学年までは、席が近かったり登下校が一緒だったりと、その場にいる友だちとの遊びが多いです。それが中学年になると積極的に固定の友だち同士で集まるようになり、放課後や休日まで遊ぶようになります。そうやって子どもたちは仲間意識を強め、人づきあいのスキルを習得します。ただ、まだ判断力が充分でないために仲間内のふざけや悪ノリがエスカレートしたり、悪いことに巻き込まれたりする可能性があります。そういうとき、親は子どもの友だちづきあいに口をはさむこともできますが、身の危険や他人を不快にさせるなどのとき以外は口出しをぐっとこらえて、しっかりと子どもを見守る関わり方もできます。「今日は公園で遊んだんでしょ？」「約束の時間よりも早く帰ってきたけど何かあった？」などと『あなたのことはちゃんと見ているよ、気にかけているよ』という姿勢を子どもにみせておくことで、行動のエスカレートを防ぐことができます。そして、子どもが困ったときに助けを求めやすくもなります。

子どもは友だちづきあいを通して、新たな興味や関心に出会い、家庭では味わえない体験をします。楽しいことだけでなく、悲しいことや不安になる出来事もあるでしょう。大人の手が必要なときももちろんありますが、子どもたちは自分たちで知恵を絞って対処する力ももちあわせています。周囲の大人たちは、しっかりと様子を見極めながら、子どもの成長の機会を温かく見守っていきましょう。

発達障がいを理解する視点

《第１回》うとう塾　5/26 開催

発達障がいってなぁに？
～子どもとの関わり方～

講師：町田 徳子さん
（青森県発達障害者支援センター「ステップ」 所長）

発達障がいの特性や関わり方について、青森県発達障害者支援センター「ステップ」町田徳子所長より、講話を頂きました。

「発達障がい」は、脳機能の発達に関連する生まれつきの障がいで、脳の働き方に違いがあります。原因は、はっきりしていません。障がいの特性は、十人十色で非常に多様です。「自閉スペクトラム症」「注意欠如多動症」「限局性学習症」「発達性協調運動障害」「チック」「吃音」等があります。一見して「違い」が分かりにくい障がいです。例えば、学び方や物事の捉え方が難しい特性の子の場合、「ちゃんとやりなさい」と言われても、「ちゃんとって、何？」と、理解することが難しいのです。「オモチャを箱にいれてね」と具体的に伝えると理解できます。子どもが困っている障がいの特性を知ると、その子に必要な支援（関わり方、教え方）が分かり、早期から適した関わり方をする事で、適応行動（社会性）が改善することが期待できます。

自閉スペクトラム症の小学４年の男児が「障がいの特性を知ってほしい」との思いで作成した資料から当事者だから言える「何をやれば良いか具体的に説明してほしい、感じ方がみんなと違うことを知ってほしい、言葉だけでなく見て分かるものを使ってほしい」という内容が紹介されました。

「障がい」があるから何でもOKではありません。何も知らなくても良い、何もしなくても良いわけではありません。社会のマナーや様々なスキルを学び経験する権利が子ども達にはあります。

発達障がいのある子のことを理解するうえで以下のことがあります。

1 言葉だけでなく、見てわかるものを使ってほしい。
2 「はじめ」と「おわり」をはっきりしてほしい。
3 指示や質問は、具体的に短くゆっくりしてほしい。
4 何をやればいいのか具体的に説明してほしい。
5 感じ方がみんなと違うことを知ってほしい。
6 他の人の気持ちがわからないと知ってほしい。

この他に、「本人の気持ちを受け止め自尊心を大切にすること。そして、叱らないで禁止の理由や社会のルールを教えることや、一貫した態度で接することなど」の視点を町田さんからお話していただきました。

『うとう塾』ってなぁに？

発達に心配（発達の偏りや遅れ）のある４歳～小学校中学校までの保護者や関心のある方を対象に、専門知識を持つ講師をお迎えして、年５回開く子育て講座です。

『青森県子どもの発達支援ガイドブック』（2022 年 3 月 29 日刊行）は、「ステップ」のＨＰからも見る事が出来ます。

青森市子育てサポートセンター

【TEL・FAX】017-774-6537（開設時以外は、留守番電話にお願いします。）
【住所】〒030-0813　青森市松原１丁目６-３　サンピア（勤労青少年ホーム）２F
【開設日時】毎週火曜日 10:00～13:00
【E-mail】aomorishi-saposen@arion.ocn.ne.jp　【ブログ】http://blog.goo.ne.jp/saposenrarara

青森市子育てサポートセンターの運営は、私たち《青森市家庭教育サポーター連絡会》が、青森市教育委員会から家庭教育支援事業を受託して行っています。「青森市内で子育てをしている保護者のみなさんのお役に立ちたい！」という熱い思いで活動に取り組んでいます。